

令和7年度 地域包括支援センター運営部会議事録

日 時 令和7年6月30日（月）  
午後2時00分～午後3時15分  
場 所 豊明市商工会館 1階イベントホール  
欠席者 なし  
傍聴者 なし

1 あいさつ  
部会長

2 議 題

(1) 地域包括支援センター運営方針及び運営体制について  
(資料1-1、1-2、1-3)

→資料をもとに、事務局から概要を説明

- ・令和6年10月から、「重層支援センター」を市直営の「基幹型地域包括支援センター」として位置づけ、相談対応力を強化している。
- ・今後80歳以上高齢者数の増加を見据え、体制強化をしていく。
- ・市内全域で見ると高齢化率は、0.1%下がっているが、高齢者人口に占める後期高齢者の割合は、各包括圏域内で1%以上上昇している。
- ・北部地域包括支援センターは、職員1名増。
- ・基幹型包括支援センターは、職員9名で幅広い世代の対応をしている。

(2) 令和6年度地域包括支援センター実績報告

及び令和7年度地域包括支援センター事業計画

(資料2-1、2-2、資料3-1、3-2、資料4-1、4-2、4-3、4-4、資料5-1、5-2)

→資料をもとに、各包括から概要を説明

- ・(北部：資料2-1)  
総合相談支援業務について、相談件数が昨年度と比較して少し減っているが、入力方法による違い。
- ・(中部：資料3-1)  
土曜日、祝日も開室しており、南北包括管轄の相談も受け付けている。
- ・(南部 認知症総合支援事業：資料4-3)  
普及啓発事業「オレンジ・ランプ上映会」が大変好評で270名の参加があった。

【質疑応答】

**委員** 夏は暑すぎてウォーキングができないと相談があるが、真夏はどのようなことをしているのか聞きたい。

→(南部) ウォーキングは夏の3か月間6:30に開始している。

参加者が中止を希望しないため、中止にすることはあまりない。

また、日常にできることを自宅で続けていただくことを伝えている。

**委員** 「資料1-2 7 地域包括支援センターの体制及び機能強化」について何を行っているのか？

- （事務局）人員が足りているかを考え、人件費の予算確保等計画的に行っている。
- ・重層支援センター長と共生社会課長の兼務は重すぎるのではないか。
  - （重層支援センター長兼共生社会課長）
    - 主幹級の職員が実務を担っており、また役職者の層も厚いため問題ない。
- ・相談事に早く対応できるのか。
  - （重層支援センター長兼共生社会課長）
    - それぞれが現場で判断をするため、素早い対応ができています。
- ・（意見）民生委員の地域の活動と包括の連携が、より良い地域づくりのために重要である。

**委員** 各包括それぞれの圏域の特色について

- （北部）圏域が広いため、地域資源までの距離が遠い。
  - 豊明団地があり、問題を抱えている世帯、男性独居（キーパーソンなし、認知症あり、ご近所トラブル、困窮）が最近の課題となっているため、URと連携し対応している。
- （中部）市役所、病院も多くあり、地形も平坦な所が多く、地域資源が豊富。しかし、坂が多い地区は地域資源の紹介が困難。
- （南部）家族で介護している方が多い。
  - 桶狭間地区は、住民同士の支え合いが活発。
  - 公共施設は少ないが、地域住民の意識が高い地域であるため、地域資源が増えている。
  - 坂が多いため、通うにはどうしたらよいかが課題となっている。
- ・総合相談支援の内容について
  - （北部）介護予防サービスの申請や、親子などの家庭内の揉め事、成年後見についてなど。
  - （中部）認知症にプラスして家庭内の問題が付随している。
  - （南部）これから介護される側としての意識が高く、知識があるため、早い段階で自ら相談に来る方が増えている。
    - 介護保険サービスの福祉用具の申請や、住宅改修の申請が多い。
- ・認知症カフェの実人数は増えているか。
  - （北部）グリーンカフェ二村台：少ないと数人、多いときは10名程度  
オレンジカフェ勅使：車で来るか近い方なので、数名程度
  - （南部）曹源寺：駐車場が広いため、スタッフ、参加者合わせて40名程度  
新規も毎回いらっしゃる。  
ハーミット：15名程度  
いっぷく：新しくできた。10～15名でいっぱいとなる。  
場所により特色があり、相談しやすい場となっている。

(3) その他

→特になし

以上